

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都府】

学校名【 京都府立北桑田高等学校 】

1 実践テーマ	【I・V】
2 実施対象者	京都府立北桑田高等学校生徒・教職員 森林リサーチ科1組 1年29人・2年25人・3年20人 普通科2・3組 1年26人・2年33人・3年34人 計167人 教職員 38人 保護者等 5人 総計 210人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（保健体育・国語） ② 行事名（オリンピック・パラリンピック教育推進事業講演） ③ その他（オリンピック・パラリンピック関連図書展示コーナーの設置、高校生短歌コンクール～オリンピック・パラリンピック賛歌への1, 2年生全員の応募） (2) 地域における活動 ① イベント名（本校のクライミング施設を活用した地域の小中学生や住民に対するスポーツクライミング体験教室の実施、各種スポーツイベントへのボランティア参加） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・オリンピック・パラリンピックの目的や意義を理解し、スポーツへの興味関心を高め、生涯を通してスポーツに親しむ意識を高める。 ・目標に向かって努力することの大切さを認識し、自己肯定感の醸成を図る。
5 取組内容	1 事前取り組み (1) オリンピック・パラリンピック関連図書展示コーナーの設置 (2) 高校生短歌コンクール～オリンピック・パラリンピック賛歌～への2, 3年生の全員参加 (3) スポーツイベントへのボランティア参加 (4) 本校のクライミング施設を活用した地域対象のスポーツクライミング体験教室の実施



2 オリンピック・パラリンピック教育推進事業

(1) 講演

テーマ 「意志を持つことの大切さ」

講師 佐野 優子 氏

女子バレーボール元日本代表(リベロ)

ロンドンオリンピック銅メダリスト

日時 令和元年12月17日(火)13:30~15:10

場所 本校体育館

全校生徒、教職員、PTA、地域住民を対象に、女子バレーボール元日本代表のリベロとして活躍し、ロンドンオリンピックで女子バレーボールが銅メダルを獲得する中心選手とした活躍した佐野 優子 氏に「意志を持つことの大切さ」をテーマに講演をいただいた。

身長160cmで世界一のリベロとして数々の世界大会でベストリベロ賞を獲得、ロンドンオリンピックで銅メダルを獲得するに至った過程やその中で大切にしてきた考え方、取り組み方などを中心に講演をいただき、質疑応答を行った。

【講演内容】

小学生の時に友人と一緒にいたいという理由からバレーボールを始め、その友人が進学した他県の中学へ一緒に入学し、親元を離れ、バレーボールを続け、小中学校とも全国大会に出場した。高校では京都の北嵯峨高校に入学し、当初はレギュラーになれなかったが、努力を積み重ね、レギュラーのアタッカーとして活躍し、インターハイ3位で優秀選手を受賞した。

高校卒業後は、より高いレベルを求め、実業団で活躍し、リベロとして日本代表となったが、アテネオリンピックでは直前で代表から外れた。しかし、裏方としてチームに帯同し選手を支えた。

更なる飛躍のためフランスリーグのカンヌに入団し、欧州チャンピオンズリーグのベストリベロ賞を受賞するなどの活躍をし、日本代表に復帰。

北京オリンピック出場、アゼルバイジャンのチームに移籍、世界選手権で銅メダル獲得など活躍し、ロンドンオリンピックで28年ぶりとなるメダル獲得に大きく貢献した。

その後も、トルコ、スイスと海外のチームに所属し、世界を代表するリベロとして活躍した。

日本選手の海外移籍の先駆けであり、現在はバレーボールの解説や指導、選手の海外移籍の支援などを行うとともに、バレーボール教室などを通して、地域貢献にも積極的に取り組んでいる。



バレーボールを続けた中で、挫折や困難にぶつかったとき、「悔しい気持ちをどう力に変えるか」を考えた。

そのために、「自分はどうしたいか、どうなりたいのか」を考え、もう一度「原点に戻って」何をすべきか考えた。そして「何のためにやるのかを考える」ことをしっかりと行った。

何か自分が「夢中になれるものを見つける」ことが大切で、そのためのきっかけをつかむため「小さな事から広げて行き」自分が夢中になれるものを見つけてもらいたい。

この講演を通して、生徒達も目標に向かい、夢を実現するために「意志を持つことの大切さ」を実感することができた。



2) 実技指導

放課後、男子バレーボール部対象に実技指導を中心に交流を図った。



3事後指導

生徒の感想

・講演を聴いて、成功した事が表に出るけれども、色々な苦労の上にその成功や成果があるのだと分かった。「意志を持つことの大切さ」というテーマで講演され、佐野さんは「バレーボールが好き」で「バレーボールをしたい」という強い意志を持って進み、悩みながらも今まで色々な所で活躍しておられる事がよく分かった。私も、自分のやりたいことに対する意志をしっかり持ちたいと思った。(1年女子)

	<ul style="list-style-type: none"> ・今「失敗した！」と思っても、めげずに頑張ることが大事な事だと気づきました。これからつらいことがあっても、将来は良い事があると信じて頑張りたいです。ありがとうございました。(1年女子) ・1つ1つの言葉に力強さを感じました。オリンピックを経験された方からのアドバイスは、とても今後につなげられる事ばかりでした。「小さな事から広げていく」この言葉を聞いて、今、大きな夢を持っていなくても、好きな事を夢にしたらいいのではないかと、心で思う事ができました。(2年女子) ・私も昔の佐野さんと同じで、一人では何もできなくて、誰かと一緒にいないと何もできない性格で、今の私と重ね合わせて話を聴く事ができました。その中で、特に印象に残っている事は、「迷ったら直感を信じて、いろんな事にチャレンジする」です。私は一人で選択できなくて、あまいになりがちだけど、そんな時こそ自分の直感を信じて、自分に自信を持てるような人間になりたいです。(2年女子) ・佐野さんの話を聴いて、本当にバレーボールが好きなんだと、とても伝わりました。私も3年間野球をやっていて、野球が好きなのに辞めたいなと思う時期がありました。ですが、私も野球が好きだったので、最後の最後まで諦めずやり通す事ができました。佐野さんが「小さな事でもいいので自分を夢中にする何かを見つける事が大切です。」と言っている事にあらためて夢や希望を持つ事の大切さを学ぶ事ができました。あの場では手を挙げられなかったのですが、ロンドンオリンピックのあの試合を最後まで見ていました。(3年男子) ・日本代表に選ばれるほどのスポーツ選手は普通の人とは何か違うのだろうと思っています。でもそれは才能というよりも、むしろ思いやそこから生まれる努力の差なのかもしれないと感じました。人と比べ始めると絶対に劣っているところはあるけれど、できる限り努力を尽くしたいです。(3年女子)
6主な成果	<p>1 ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を通して、世界レベルの大会や選手を実際に見て感じることで、競技に対する意識が高まった。 <p>2 授業での取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業で2、3年生全員が「高校生短歌コンクール～オリンピック・パラリンピック賛歌」に応募し、オリンピック・パラリンピックに向けた関心が高まるとともに、自らの生活の中から友情や感動、共感、感謝などの感覚を醸成することができた。 <p>3 講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な困難にぶつかっても挫折することなく、常に前向きに物事を捉え、夢を持って取り組んでいく、勇気や努力、人間の持つ可能性を多くの生徒が感じ取ることができた。 ・講演を通して、意志を持つことの大切さ、小さな事をきっかけに大きく広げていく、努力を積み重ね、勇気を持ってチャレンジすることの大切さなどに気付くことができた。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 高校生短歌コンクールへの参加など、授業を通してオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを実践できるよう、各教科で取り組んだ。 • 講演に向けて、事前に生徒から質問を集め、その内容に触れながら、講演や質疑応答が進められた。 • PTA、地域住民にも広報を行い、5名の参加があった。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 講師の都合をふまえ、学習指導計画や他の学校行事をそこなうことなく、日程を調整する必要がある。 • スポーツだけでなく、ボランティア活動や共生社会、おもてなしや文化交流などにもさらに積極的に取り組んでいきたい。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 未定